

[成果情報名] 耕種的防除法によるホオズキホ口汚れの軽減

[要約] ホオズキの8月出荷栽培においてホ口に白斑などが発生するホ口汚れは葉に斑点症状を起こす斑点細菌病、白斑病など複数の病原菌が原因で、雨よけや罹病・黄化葉の除去の耕種的防除法により、発生を抑えることができる。

[キーワード] ホオズキ、ホ口汚れ、雨よけ、罹病葉除去、斑点細菌病、白斑病、炭疽病、*Botrytis* 属菌、*Alternaria* 属菌

[担当] 静岡農林研・生産環境部

[代表連絡先] 0538-36-1556 電子メール agriseisan@pref.shizuoka.lg.jp

[区分] 関東東海北陸農業・関東東海・病虫害（病害）

[分類] 技術・普及

[背景・ねらい]

ホオズキの8月出荷では「ホ口汚れ」と呼称されている、ホ口に白斑、褐斑等が発生して商品価値が低下することから問題となっており、その原因究明と防除対策について検討を行った。

[成果の内容・特徴]

- 1．ホ口汚れの原因は斑点細菌病、白斑病、炭疽病、*Botrytis* 属菌、*Alternaria* 属菌と複数の病原菌によって引き起こされる。
- 2．ホ口汚れは雨よけ、罹病葉の除去を組み合わせることによって発生の軽減が可能であり、雨よけ、罹病葉除去の単独処理でも発生を軽減できる。

[成果の活用面・留意点]

- 1．本試験は畝ごとに180cmの高さの雨よけトンネルを設置して実施した。
- 2．罹病葉除去区は5月30日～7月11日まで1週間間隔で斑点性病害発生葉、黄化葉、ホ口に付着した花弁を除去することで実施した。
- 3．耕種的防除と農薬による化学的防除を合わせて実施する必要がある。

[具体的データ]

第 1 表 耕種の防除によるホオズキホ口汚れ症状の防除効果

処理区	雨よけ	罹病葉除去	調査株数	ホ口数	汚れ発生ホ口数	発症ホ口率(%)	防除価	草丈平均(cm)
			60	1,713	21	1.2	85.8	129.7
		×	60	1,637	54	3.1	61.8	121.6
	×		60	1,718	59	3.5	57.9	120.9
	×	×	60	1,613	132	8.2		121.2

防除価は表中の発症ほろ率より算出した。

防除価 = (無処理区 発症ほろ率 - 各処理区 発症ほろ率) / 無処理区 発症ほろ

(1) 処理方法 処理開始日:平成20年5月30日 処理区 1区1畝(0.6m×16m) 反復なし

雨よけ処理:高さ180cmのトンネルを設置した。

罹病葉除去処理:5月30日、6月6日、13日、20日、27日、7月4日、11日に斑点細菌病等の罹病葉及び黄化葉、ホ口に付着する花弁を除去した。

(2) 調査 調査日:平成20年7月18日

調査方法:各処理区より6ヶ所、各10株、合計60株のホ口数とホ口汚れの発生ホ口数を調査した。ホ口汚れはホ口に白色、褐色、水浸状等の斑点症状が発生したものをカウントした。

[その他]

研究課題名:花き類新病害の分子診断・防除システムの開発

予算区分:国庫

研究期間:2006~2008年度

研究担当者:鈴木幹彦、市川健、内山徹